

保育者養成校に求められる学生の資質について

— 保育現場へのアンケート調査より —

林 悠子・森本 美佐・東村 知子

奈良文化女子短期大学

The Required Abilities for Students in Childcare Training School: From the Results of the Questionnaire to Directors in Kindergarten and Nursery School

Yuko Hayashi, Misa Morimoto, Tomoko Higashimura

Narabunka Woman's College

本研究では、本学卒業生の就職先保育所・幼稚園・施設に対して行ってきた勤務実態についての過去6年間のアンケート調査のうちの自由記述から、園長・施設長らが保育者養成校に望むこと、また就職した本学卒業生が評価されていることを分析した。その結果、保育現場ではまず保育者としての「技術や知識」、「資質」が求められ、同時に社会人としての力や保育者として働く意識などが求められることが明らかとなった。卒業生らはそれぞれの持つ資質や人柄、働く姿勢は評価されているが、「保育技術」に対する評価は十分ではないことが明らかとなった。本学としては、在学中に「保育技術」を一つでも多く身につけさせ、それぞれの良い資質を十分に伸ばしながら、保育者としてだけでなく社会人としての高い意識を持って就職をさせることが重要であると考えられる。

キーワード：保育者養成、保育者の資質

1. はじめに

保育や幼児教育を取り巻く社会的な変化に伴い、保育者に求められる資質もまた変化している。従来の専門知識や技術の習得に加え、社会動向を理解し、特別支援や保護者支援の方法を学び、地域社会との密接な連携も可能な、多才な人材の育成が望まれている。

しかしながら、保育者養成校の中には十分な知識や技術を身につけられず、また就業意識も希薄なまま卒業し就職していく学生がいるのも事実である。このことは本人だけではなく受け入れ先の保育現場においてもその意識や資質に対するギャップを生じさせ、本人の体調不良や早期離職、また保護者との関係の悪化や職場の混乱といった問題につながりかねない。これらのことは養成校共通の課題でもあり、

林 悠子・森本 美佐・東村 知子 〒631-8523 奈良市中登美ヶ丘3-15-1 奈良文化女子短期大学

全国保育士養成協議会による卒業生の動向や業務の実態に関する大規模な調査や¹⁾、それぞれの養成校による卒後調査や在学生への調査²⁾³⁾⁴⁾が行われ、現状把握や課題の解消に努めようとしている。また、養成校と保育施設とは常に交流会や勉強会の場を設け、就職後また実習中に起こる様々な問題を解決しようと日々努力している。

保育者養成校である本学においても、授業や就職指導のより一層の改善を図ることを目的とした現状把握のため、前年度に卒業した学生の就職先保育所・幼稚園・施設に対して、卒業生の勤務実態についてのアンケート調査を行っている。毎年、ほぼすべての卒業生が幼稚園二種免許ならびに保育士資格を取得し、その多くは「将来の夢」を叶えた形で専門職への就職を果たしている。しかしながら、その理由は様々であるが、調査時を待たずして半年足らずで退職しているケースも見られる。また、在職している多くの卒業生も、憧れの職に就いた喜びや充実感を感じると同時に社会に出て初めて直面する現場の厳しさや自身の力量不足を感じ、困難や悩みを抱えているのも事実であろう。

本研究では、年度ごとに行ってきた調査の全体を分析することにより、現場ではどのような保育者の資質が必要とされ、養成校に何が望まれているのかを明らかにしたいと考える。また、就職した卒業生が評価されていることと必要とされる保育者の資質とを比較することによって、本学に求められる学生の資質や課題を明らかにしたいと考える。

2. 目的

本研究は、H17年度からH22年度まで過去6年間に保育者養成校である本学卒業生が就職した幼稚園や保育所に対して行ったアンケート調査のうち、自由記述部分の分析を行った。アンケートの調査項目は、「保育者としての姿勢」「保育の実践力」「保護者との信頼関係」「職場でのコミュニケーション」「プライバシーや人権への配慮」「満足度」の7項目（H19年度調査より「在職状況について」の項目を追加）について4件法で尋ねているが、本研究では最終質問項目「上記内容も含め、養成校への要望等お書きください」に対する園長、施設長らの自由記述を分析することにより、保育現場が考える保育者に必要とされる資質や保育者養成校に求められる役割について明らかにすることを目的とした。

3. 方法

3.1 調査対象と時期

H17年度からH22年度卒業生の就職先である保育所・幼稚園・施設の園長ならびに施設長宛てに卒業生の勤務実態に関するアンケート調査を郵送し、同じく郵送で回答を得た。

調査時期はH19年（6月～7月）・H20年～H23年（9月～11月）であった。H19年度卒業生からH22年度卒業生については就職後半年を経た9月から11月にかけて実施したため、在職期間はおおむね5ヶ月～7ヶ月となっている。しかし、H17-18年度卒業生については2年同時に6月に実施したため、

在職期間に2ヶ月～1年3ヶ月という幅ができています。また、調査時に退職しているケースもある。

3.2 調査対象と回答の属性

アンケートの送付先保育所・幼稚園・施設の数、有効回答数ならびに回答率は以下の通りである（順に送付先数/有効回答数/回答率、表1に示す）。H17-18年度（116ヶ所/54名分/46.6%）、H19年度（79ヶ所/52名分/65.8%）、H20年度（59ヶ所/30名分/50.8%）、H21年度（13ヶ所/10名分/76.9%）、H22年度（25ヶ所/16名分/64.0%）、計292ヶ所/162名分/55.5%であった。

このうち、分析対象である自由記述への有効回答数は100であった。年度ごとの回答数は以下の通りである。H17-18年度（34）、H19年度（28）、H20年度（20）、H21年度（6）、H22年度（12）。

また、回答者の所属は、私立保育園（61）、公立保育園（22）、私立幼稚園（7）、公立幼稚園（1）、認可外保育所（5）、施設（2）、託児所（2）であった。

表1. 調査回答に関する概要

卒業年度	送付先数	調査全体		有効回答のうち自由記述について	
		有効回答数	〈回答率・%〉	有効回答数	〈回答率・%〉
H17-18年度	116	54	46.6	34	62.96
H19年度	79	52	65.8	28	53.85
H20年度	59	30	50.8	20	66.67
H21年度	13	10	76.9	6	60.00
H22年度	25	16	64.0	12	75.00
Total	292	162	55.5	100	61.73

卒業年度	所属						
	公立幼稚園	私立幼稚園	公立保育園	私立保育園	認可外保育所	施設	託児所
H17-18年度	1	2	11	18		1	1
H19年度		2	9	16			1
H20年度			1	15	4		
H21年度		1		4		1	
H22年度		2	1	8	1		
Total	1	7	22	61	5	2	2

3.3 分析方法

自由記述の分析は、中田²⁾や古井⁵⁾らのアンケートの自由記述分析の手法を参考に行った。それぞれの記述からキーワードを抽出し、1) 養成校への要望や保育者として必要なこと、2) 卒業生が現場から評価されていること、の2点において、それぞれカテゴリー化を行った。

年度により回答数にばらつきがあること、また、所属についても幼稚園8園、保育園88園、施設2園、託児所1園と圧倒的に保育所が多く所属間での比較が困難なため、分析対象となる自由記述100名分について全体的な傾向を分析することとした。

4. 結果

4.1 養成校への要望や保育者として必要なこと

分析の結果、合計119個のキーワードが抽出され、8つのカテゴリーに分類を行った（表2に示す）。『ピ

『ピアノの技術』や『指導計画の立案』といった具体的な保育の技術や専門知識・基礎学力について、最も多い36のキーワードが抽出され、「保育者に必要な技術・知識」とした。また『豊かな人間性』や『豊かな感性』など個人の人格や資質に関する19のキーワードを「保育者としての資質」とし、『マナー・礼儀作法』や『コミュニケーション能力』など社会で求められる能力についての17のキーワードを「社会人として必要なこと」とした。以下、『気配り目配り』や『保育者の責任や役割の重要性の理解』など専門職として求められる要素を「保育者としての意識・姿勢（キーワード数；13）」、『指示待ちではなく自ら動く』『積極性』など仕事に対する意識や働き方を「働く姿勢（同；12）」、『責任感』『社会人としての自覚』などを「社会人としての意識（同；10）」とした。また、『実習・保育実践』など、学生のうちにより多く体験しておきたいことを「社会に出る前にすべきこと（同；7）」、そして『精神面の安定』など心身の健康に関わることを「健康（同；5）」とした。

表2. 自由記述から抽出された「養成校への要望や保護者として必要なこと」のキーワードとカテゴリー

カテゴリー	キーワード	
	数	おもなもの ※()内は回答数
保育者に必要な技術・知識	36	ピアノの技術(11) 応用力・実践力(6) 指導計画の立案(6) 文章力・漢字(6) 手遊び歌あそび(5) 専門知識(5) 保護者対応(4)
保育者としての資質	19	豊かな人間性(7) 豊かな感性(3) 家庭生活で培われてきた価値観(3)
社会人として必要なこと	17	マナー、礼儀作法(8) コミュニケーション能力(6) 常識(5) 挨拶(5) 言葉遣い(5)
保育者としての意識・姿勢	13	気配り目配り(4) 保育者の責任や役割の重要性の理解(3) 子どもに共感し理解する意識(3) 向上心(3) 前向きな学習(3)
働く姿勢	12	指示待ちではなく自ら動く(9) 積極性(5) 意欲(4) 即戦力(4) 人の話を素直に聞く(4)
社会人としての意識	10	責任感(6) 社会人としての自覚(3) 仕事とは何か(2) 現場の厳しさ(2)
社会に出る前にすべきこと	7	実習・保育実践(7) 保育・福祉現場でのボランティア(2)
健康	5	精神面の安定(3) 心身ともに健康(2)

4.2 卒業生が現場から評価されていること

分析の結果、合計54個のキーワードが抽出され、5つのカテゴリーに分類を行った（表3に示す）。

『明るさ』『素直さ』『まじめ』といった本人の持つ資質や人格について、最も多い17のキーワードが抽出され、「資質・人柄」とした。また、『仕事に責任を持って臨む姿勢』や『意欲』『努力』など働く時の気構えなどについて14のキーワードが抽出され、「働く姿勢」とした。以下、『コミュニケーション』『円滑な人間関係』など対人関係に関するものを「人間関係（キーワード数；10）」、『挨拶』『言葉遣い』など社会で求められる能力について「社会人として必要なこと（同；9）」、『ピアノ』『ダンス』など具体的な保育の技術や専門知識・基礎学力について「保育者に必要な技術・知識（同；4）」とした。

表3. 自由記述から抽出された「卒業生が現場から評価されていること」のキーワードとカテゴリー

カテゴリー	キーワード	
	数	おもなもの ※()内は回答数
資質・人柄	17	明るい(8) 素直さ(8) まじめ(7) 笑顔(5) 優しい(2)
働く姿勢	14	仕事に責任を持って臨む姿勢(4) 意欲(4) 努力(4) がんばり(3) 一生懸命(3)
人間関係	10	コミュニケーション(2) 円滑な人間関係(2) 他の職員との連携(2)
社会人として必要なこと	9	挨拶(3) 言葉遣い(2) 丁寧な関わり方(2)
保育者に必要な技術・知識	4	ピアノ(2) ダンス

5. 考察

子育てをめぐる現状と課題について、内閣府・文部科学省・厚生労働省による資料では、急速な少子化の進行や、結婚・出産・子育ての希望が叶わないこと、子ども・子育て支援の質・量ともに不足していることなどが現状であり、質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供、保育の量的拡大・確保、地域の子ども・子育て支援の充実を課題としている⁶⁾。これまでも子ども・子育てに関連した法案が成立し、認定こども園の拡充や改善、養成校のカリキュラムの変更、また資格・免許の一本化や養成施設である短期大学の四年制大学化への検討など大きな動きがみられる。そして現場の保育者、また養成校に在学中の学生には社会の動きや制度の理解や、より高度な専門知識が求められている。全国保育士会

のまとめた「保育士の専門性」とは①専門職としての基盤、②専門的価値・専門的役割、③保育実践に必要な専門的知識・技術、④組織性であるという。

本調査結果からは、保育現場では即戦力として役立つ「技術や知識」が第一に求められていることが明らかとなった。さらには、豊かな感性を持ち、保育者としての仕事を理解し、社会人としてのマナーを身につけ、積極的な姿勢で仕事をすることが求められている。

卒業生は、明るく素直な人柄や、最低限社会人として必要なことを身につけ、人間関係に配慮しながら一生懸命に努力している姿勢などが評価されている。「保育士の専門性」における①専門職としての基盤で示されている人間性と、④組織性で示されているチームワークや協力性といった点は満たしているといえよう。また、幼稚園園長らに対する浅見⁷⁾の調査では、採用時に重視する点として「人柄」や「保育者の魅力」「熱意」「良識」「常識」などを挙げている。本結果についても評価された点に共通点が見受けられる。

一方で、就職後半年から1年というわずかな時間しか経ていないことから、保育技術に対する評価は少なく、十分備わっているとは言い難い。「保育者に必要な技術・知識」としては『ピアノの技術』や『指導計画の立案』『保護者対応』などの回答が多かったが、ピアノや文章力など、本人の日々の努力やこれまで培ってきたもので対応できる技術もあれば、保護者対応の仕方や子どもの様子を十分に捉えて行う速やかな立案など、日々の実践の積み重ねでしか身につかない技術もある。また、社会情勢を反映し、『地域の子育て支援の保育内容』や『危機管理』といった回答もあり、授業の中で具体的かつ実践的に行うには難しい技術もある。

卒業直後と卒後3～4年で求められる資質や専門性についての比較を行った目白大学短期大学部の調査⁴⁾では、卒業直後には責任感や協働性、コミュニケーション能力といった「保育士としての資質・能力」が重視され、3～4年後ではさらに「自ら指導計画を立てる能力」「全体的な状況を把握する力」「子どもへの個々の対応力」といった、応用力や実践力が強く求められるようになる。同調査では、養成校である短期大学が重視する力の程度と保育所が重視する力の程度を比較している。これによると、保育所は卒業直後の力を卒後3～4年間で伸ばそうという考えであるのに対し、短期大学では、保育所が求める卒業直後の能力よりも高い力を卒業時の学生に求めているという。養成側はより高いスキルを学生につけようと努力しているが現場で求めるものやその意識にギャップがあるのは事実であり、「今後は保育現場と短期大学が『短期大学卒業時点の保育士ができること』について基準を共有することが必要であろう」としている⁴⁾。本調査結果からは、「保育者に必要な技術・知識」が数多く挙げられていたが、この中で、当然有しておくべき基礎学力、在学中に身につけておくべき専門知識、就職後の応用に繋がていける基礎知識というように、本学においてもこの点を整理し、各教員が意識の共有を図って今後の授業や指導に繋げていくことが大切であると考えられる。

保育者養成への期待に関して幼稚園・保育園園長らに行った高簾³⁾らの調査でも、養成段階と研修段階で身につけておくべき保育者に必要とされる力量や資質について、全体に、養成段階よりも研修段階で身につけるべきことが多いとしている。「心身健康」「職業意義」「病気対処」といった力量についての項目は養成段階でも必要度のポイントが高く、子どもの心身の健康への配慮だけでなく、病気などの対処ができること、また保育者としての職業意識の形成が養成段階に強く望まれていた。保育者の資質

として「規範性」「明朗性」「学究性」はいずれの段階でも必要度のポイントが高く、保育者は幅広い様々な資質を養成段階から研修段階まで一貫して培うこと、特に積極的に園内外の研修に参加し自身のスキルアップに努めることが求められていることがわかる。

本研究でも、「社会に出る前にすべきこと」として、より多く、積極的に実習を経験すること、また実習以外にもボランティアなどを通して保育現場での実践をより多く積んでおくことや、さまざまな体験をして多くの人と出会い、人間性を深めておくことが求められている点が興味深い。目の前の課題や自分の興味にしか目がいかない今日の学生に、好奇心をもって多くの体験をし、自己研鑽に励む機会を持つことの重要性を認識させることもまた課題の一つであると考ええる。

さらに、知識や技術を獲得することに加え、安易な就職にならないよう社会人としての意識づけや仕事をするものの意味を体得させキャリア形成を助けることが必要である。

6. まとめ

卒業生の勤務実態についてのアンケート調査のうち、自由記述から園長・施設長らが保育者養成校に望むこと、また就職した本学卒業生が評価されていることを分析した。その結果、保育現場ではまず保育者としての「技術や知識」、「資質」が求められ、次に社会人としての力や保育者として働く意識などが求められることが明らかとなった。卒業生らはそれぞれが有する資質や人柄、働く姿勢は評価されているが、「保育技術」は十分でないことが明らかとなり、在学中に「保育技術」を一つでも多く身につけ、保育者としてだけでなく社会人としての高い意識を持って就職をすることが重要であると考えられた。

また養成校である本学としては、これら求められる資質をいかに向上させ社会に送り出すか、短期大学としてできることを考えながら有効なカリキュラムの構築や授業間の連携を図るなど手段を模索していく必要があると思われる。

謝辞

これまでの調査にご協力頂いた幼稚園、保育所、施設の園長ならびに施設長先生に感謝申し上げます。また調査の質問紙作成・集計を行って下さった本学学生課就職係の方々に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 全国保育士養成協議会 (2010)「指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査」報告書Ⅱ－調査結果からの展開」 保育士養成資料集第52号.
- 2) 中田周作 (2008) 保育者養成への社会的要請に関する自由記述の分析. 中国学園紀要 7 : 121-129.
- 3) 高嶺正人・中田周作・池田隆英 (2007) 保育者養成に対する社会的要請の調査研究. 中国学園紀要 6 : 149-160.

- 4) 目白大学短期大学部 (2011) 短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究 成果報告書.
- 5) 古井克憲 (2011) 小学校教員からみた特別支援教育における「連携」－アンケート自由記述データの質的分析から－. 和歌山大学教育学部教育実践統合センター紀要21: 59-65.
- 6) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2012) 子ども・子育て関連3法案について.
- 7) 浅見均 (2000) 保育者の資質に関する一考察: 保育現場から見た保育者の資質. 青山学院女子短期大学紀要54: 121-150.

参考文献

- 全国保育士養成協議会 (2012) 「指定保育士養成施設教員の実態に関する調査」報告書Ⅱ－調査結果からの展開」 保育士養成資料集第56号.